

# 平成 27 年度 課題研究成果報告書

平成 28 年 3 月 18 日現在

研究種目：研究Ⅱ

研究期間：平成 27 年 4 月～平成 28 年 3 月（1 年間）

研究課題名：ライフヒストリーカルテの有用性の検討 - 高齢認知症患者の生活史理解の  
試み -

研究代表者

氏名：田中寛之

所属：1) 医療法人晴風園今井病院 2) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究所

会員番号：45456

研究成果の概要：

本研究ではライフヒストリーカルテが療養型病院での医療・介護に有効に活用できているかどうかを検討するために、198 名に対してアンケート調査を実施した。169 名から回答が得られた自由記述については【介護者へのメリット】のカテゴリに、介護者の意識の変化、生活歴の簡便な把握などのサブカテゴリが、【患者・利用者へのメリット】のカテゴリに、実際的なケアへの活用についてなどのサブカテゴリが見出され、ライフヒストリーカルテが有効活用されていることが確認できた。一方、多忙な業務の中での利用などの【介護者のデメリット】や、先入観が生まれるなどの【患者・利用者へのデメリット】も確認できた。

助成金額（円）：300,000（円）

キーワード：ライフヒストリー、カルテ、認知症ケア

## 1. 研究の背景

認知症を有する高齢の入院患者を深く理解するためには疾病についてのみではなく、個々人の Narrative な側面に着目することも重要である<sup>1)</sup>。特に、認知症の症状として出現する行動異常も患者の生活史を深く反映していることから、彼らの言動を理解するためには、生きてきた時代背景を知ることが重要となる<sup>2)</sup>。従来の療養型病院のカルテの多くは、各対象者の生活史が詳細に記載されていないために、Narrative な言動を理解するための情報には乏しく、対象者中心の治療やケアを提供する資料としては不十分であると思われる。

我々は、これまでに認知症を有する患者・利用者の生活史を簡便に把握できる多職種共有ツールであるライフヒストリーカルテを開発し平成 26 年度から医療法人晴風園今井病院（以下当院）、同法人介護老人保健施設せいふう（当施設）で一年間活用してきた<sup>3)</sup>。

本研究では、ライフヒストリーカルテから得られた情報を用いて当院、当施設の医療・介護職員が患者・利用者に対してどのようなケアを行い、どのようなメリットが得られたのかを調査し、ライフヒストリーカルテの有用性を検討することとした。

## 2. 研究の方法

### 1)調査対象

調査対象場所である当院は、医療療養病床が 112 床（内回復期リハビリテーション病棟 18 床）、介護療養病床が 159 床、当施設は施設入所 80 床の規模である。患者・利用者の平均年齢はおよそ 84 歳で、ほとんどが高齢者でかつおよそ 7 割～8 割の者が認知症を合併している。本研究の調査対象者は、平成 27 年 4 月時点で当院・当施設の職員である看護師・介護士・理学療法士・作業療法士・言語聴覚士・管理栄養士・医療ソーシャルワーカー・介護支援専門員の合計 198 名（以下、スタッフ）とした。

### 2)調査方法

調査対象となったスタッフに対して、ライフヒストリーカルテの利点や有用な活用法について問う以下の質問事項のアンケート調査を実施した。

#### (1)属性について

属性については年齢、職種、有する資格、医療・介護の経験年数、所属部署、ライフヒストリーカルテを見たことがあるかを尋ね、さらにライフヒストリーカルテ導入後に日々の業務の中で患者・利用者の生活の歴史を意識して知ろうとするようになったかを 5 件法（していた～していなかった）にて尋ねた。

#### (2) ライフヒストリーカルテの利点と活用について

《ライフヒストリーカルテのメリットデメリットについて》、《ライフヒストリーカルテから得られた情報をもとに実際に行った医療・介護計画や介入について》の 2 点について自由記述形式にて尋ねた。

#### 3)データの分析方法

質問（2）の自由記述された文章における分析は、作業療法士 6 名でそれぞれの質問ごとの回答を文節に分解し、意味内容を表す単

位となるコードの親近性、類似性、相違性に基づいて分類し、サブカテゴリ、カテゴリに集約した。判断に苦慮したコードを分類、集約するにあたっては、共同研究者の医師や看護師に助言を求め、できる限り妥当性の確保に努めた。

## 3. 研究の結果

### 1)属性について

質問紙の有効回答数は 169/198(85.4%)であった。各職種の回答数は介護士 78 名、看護師 60 名、理学療法士・作業療法士・言語聴覚士 26 名、管理栄養士 3 名、医療相談員 1 名、ケアマネージャー 1 名であった。平均年齢は、 $44.2 \pm 11.5$ 、医療・介護の平均経験年数は  $12.3 \pm 9.1$  年であった。

ライフヒストリーカルテ導入後に日々の業務の中で患者・利用者の生活の歴史を意識して知ろうとするようになったかの質問については、58 人（34.3%）が知ろうとしていた、69 人（40.8%）が少しはしていた、21 人がどちらともない（12.4%）、14 人（8.3%）があまり知ろうとしていなかった、7 人（4.1%）が知ろうとしていなかったと回答した

### 2)ライフヒストリーカルテの利点と活用について

質問項目（2）の《ライフヒストリーカルテのメリットデメリットについて》、《ライフヒストリーカルテから得られた情報をもとに実際に行った医療・介護計画や介入について》の 2 点の分析結果を示す。以下、カテゴリを【】、サブカテゴリを①～⑨、サブカテゴリを代表するコードを「」で示す。

#### 《ライフヒストリーカルテのメリットデメリットについて》

この質問については、合計 182 のコードが得られた。カテゴリは、【介護者のメリット】【介護者のデメリット】【患者・利用者へのメリッ

ト】【患者・利用者へのデメリット】の4つが見出された。抽出されたカテゴリ、サブカテゴリと集約されたコードを表1に示す。

(1) 【介護者へのメリット】【介護者のデメリット】

【介護者のメリット】については、「患者の人生を知ることにより尊敬や興味が生まれる」など15のコードが集約された①介護者の意識の変化について、「性格や好みを知ることができる」など41のコードが集約された②生活歴の簡便な把握と、「家族の患者に対する理解度がわかる」など10のコードが集約された③家族の思いがわかると、「ライフストーリーの項目は網羅されており活用しやすい」など7のコードが集約された④システム・運用面でのメリット、の4つのサブカテゴリが見出された。

【介護者のデメリット】については、「全員の分を見るのは時間がかかる」など22のコードが集約された⑤多忙な業務の中での利用について、「回収率が低い」など21のコードが集約された⑥システム・運用面でのデメリット、の2のサブカテゴリが見出された。

(2) 【患者・利用者へのメリット】【患者・利用者へのデメリット】

【患者・利用者へのメリット】については、「情報をもとに好きだった工作などをしてもらった」など23のコードが集約された⑦実際のケアへの活用について、「認知症の患者さんとの意思疎通ができる」など28のコードが集約された⑧会話に役立つ、の2つのサブカテゴリが見出された。

【患者・利用者へのデメリット】については、「患者さんの印象が偏る可能性がある」など15のコードが集約された⑨先入観を持たれる、のサブカテゴリを見出した。

《ライフストーリーカルテから得られた情報をもとに実際に行った医療・介護計画や介入

表1. ライフストーリーカルテのメリットデメリットについて

カテゴリ (総コード数)	サブカテゴリ (総コード数)	代表的コード
介護者への メリット(73)	介護者意識の変化(15)	人生を知ることでの尊敬や興味が生まれる
	生活歴の簡便な把握(41)	性格や好みを知れる
	家族の思いがわかる(10)	家族の患者に対する理解度がわかる
	システム・運用面のメリット(7)	項目は網羅されており活用しやすい
介護者への デメリット(43)	多忙な業務の中での利用(22)	全員の分を見るのは時間がかかる
	システム運用面でのデメリット(21)	回収率が低い
患者・利用者への メリット(51)	実際のケアへの活用(23)	好きだった工作などをしてもらった
	会話が増える(28)	認知症の患者と意思疎通ができる
患者・利用者への デメリット(15)	先入観がもたれる(15)	患者さんの印象が偏る可能性がある

について》

この質問については、合計98のコードが得られた。カテゴリは、【ケアへの活用】【コミュニケーションに活用】の2つのカテゴリが見出された。抽出されたカテゴリ、サブカテゴリと集約されたコードを表2に示す。

(1) 【ケアへの活用】

【ケアへの活用】については、「介護計画の参考になった」など14のコードが集約された①評価への活用について、「レクリエーションに情報を反映させた」など43のコードが集約された②介入への活用、の2つのサブカテゴリが見出された。

(2) 【コミュニケーションへの活用】

【コミュニケーションへの活用】については、「好きなことを持ち出して会話ができるようになった」など26のコードが集約された③日常会話への活用について、「信頼関係の構築の際に導入部分として情報の活用をする」など15のコードが集約された④ラポールの形成への活用、の2つのサブカテゴリが見出された。

表2. ライフストーリーカルテから得られた情報をもとに実際に行った医療・介護計画や介入について

カテゴリ (総コード数)	サブカテゴリ (総コード数)	代表的コード
ケアへの活用(57)	評価への活用(14)	介護計画の参考とした
	介入への活用(43)	レクリエーションに情報を反映させた
コミュニケーションへの活用(41)	日常会話への活用(26)	好きなことを併代して会話できた
	ラポールの形成(15)	信頼関係構築の導入として情報を活用する

今回の研究では、ライフストーリーカルテの実際の活用方法などを具体的に示すことができ、目的であったライフストーリーカルテが日常のケアに生かされていることは確認でき

た。生活歴の情報は患者・利用者の人柄を把握するうえでは、重要であるがカルテの情報と本人の認識の相違があるかどうかを評価して、情報を用いるべきであり、これらのメリットとデメリットを十分に認識したうえでライフストーリーカルテを活用する必要があるだろう。

#### 4. 文献

- 1) 稲田弘子, 渡邊一平, 栗栖照雄: 認知症高齢者施設における生活歴把握と介護職員の利用者への感情・思いの現状と両者の関連. 介護福祉学 17: 66-75, 2010.
- 2) 原 祥子, 小野光美, 沼本教子, 井下訓見, 河本久美子: 介護老人保健施設利用者のライフストーリーをケアスタッフが聴き取ることの意味 - ケアスタッフの高齢者およびケアに対する認識の変化に焦点をあてて -. 老年看護学 11: 21-29, 2006.
- 3) 田中寛之, 山本祐子, 永田優馬, 小城遼太, 日垣一男, 他ライフストーリーカルテの作成 - 生活史を多職種で共有する意義 -. 老年精神医学雑誌 25: 801-808, 2013.

#### 5. 論文掲載情報

論文掲載情報無し

#### 6. 研究組織

##### (1) 研究代表者

氏名: 田中 寛之

所属: 1) 医療法人晴風園今井病院 2) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科

会員番号: 45456

##### (2) 共同研究者

氏名: 永田優馬

所属: 1) 医療法人晴風園今井病院 2) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科

会員番号: 55728

##### (3) 共同研究者

氏名: 石丸大貴

所属: 1) 医療法人晴風園今井病院 2) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科

会員番号: 62699

##### (4) 共同研究者

氏名: 西角拓也

所属: 1) 医療法人晴風園今井病院

会員番号: 43981

##### (5) 共同研究者

氏名: 小城遼太

所属: 1) 医療法人晴風園今井病院

会員番号: 25468

##### (6) 共同研究者

氏名: 山本祐子

所属: 1) 医療法人晴風園今井病院

会員番号: 看護師

##### (7) 共同研究者

氏名: 高山妙子

所属: 1) 医療法人晴風園今井病院

会員番号: 看護師

##### (8) 共同研究者

氏名: 日垣一男

所属: 2) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科

会員番号: 673

##### (9) 共同研究者

氏名: 西川 隆

所属: 2) 大阪府立大学大学院総合リハビリテーション学研究科

会員番号: 医師

##### (10) 共同研究者

氏名: 植松正保

所属: 3) 医療法人晴風園伊丹今井病院

会員番号: 医師